

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。 水田でのヒメトビウンカの防除を行いましょう。

令和 5 年 5 月 24 日付病害虫発生予察注意報第 1 号において、イネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカに関して、水田における防除適期が早まる見込みであること、および小麦での発生量が多いことを発表しました。今回は、ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス（以下、RSV）保毒虫率についてお知らせします。

[現在の状況]

本年 5 月上中旬に県西・県南地域の小麦圃場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫の RSV 保毒虫率は、12 地点中 4 地点で 5%以上の高い値となった（表 1）。また、ヒメトビウンカの発生量が多いことから、引き続き本病の発生が懸念される。

表 1 小麦圃場におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫の RSV 保毒虫率

地域	調査地点	RSV保毒虫率 (%) ¹⁾					
		令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	本年 ²⁾	
県西	古河市 水海	— ³⁾	—	3.7	5.3	2.7	
	結城市 結城	10.6	11.7	6.3	7.4	3.2	
	下妻市 高道祖	6.4	11.7	5.9	2.7	1.1	
	常総市 三坂町	5.3	9.0	5.9	3.2	1.1	
	筑西市 二木成	9.6	10.1	9.0	3.2	5.9	
	坂東市 矢作	—	—	—	—	2.1	
	桜川市	加茂部	2.7	7.4	5.3	5.3	5.9
		原方	10.1	3.7	7.4	2.1	4.8
	八千代町 高崎	10.1	14.4	8.5	6.4	5.3	
県南	つくば市	大形	6.4	5.3	5.9	3.7	3.2
		杉木	—	—	—	5.9	1.6
	つくばみらい市 市野深	6.4	5.3	6.9	1.6	5.3	

1)簡易 ELISA 法により検定した。

2)採集日：令和 5 年 5 月 9、10、12、16、17、18 日、 検定実施日：5 月 25 日。

サンプル数：各地点 188 頭。

3) —：未調査

[防除対策]

- ① イネ縞葉枯病の発生地域で、近年育苗箱施用剤を使用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用剤を使用しなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とした本田防除を行う。
- ② 無人航空機や乗用管理機等による本田散布を行うことができない水田では、投げ込み型殺虫剤による本田防除を行う。
- ③ 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤を選択する。
- ④ イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けした水田であっても、ヒメトビウンカの増殖場所となるため、本病の多発生地域では防除を行う。
- ⑤ 薬剤および防除適期については、病害虫発生予察注意報第 1 号（令和 5 年 5 月 24 日発表）を参照する。